

しまなみだより

第23号 2025年3月発行



春暖の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

3月25日には、卒業証書・学位記授与式が執り行われ、4年生64名が本学を巣立っていきました。これから益々、看護職への期待が高まる中で、一人ひとりが自ら選んだ道で活躍してくれることを期待しています。教員一同、卒業生に再会できることを楽しみにしております。

今号では、平成6年度の学生生活の様子をお知らせします。

(看護学コース広報係)



蒼 (撮影：4年 片桐碧采子さん)

看護統合演習 令和6年度からの新科目

令和6年度から4年生を対象とした看護統合演習という科目が加わりました。この科目は、4年間の学びを統合する科目として位置付けているため、看護の専門科目が全て終了した7月23日(火)～26日(金)の日程で実施しました。

授業は、多重課題状況下で優先度を判断しながら必要な看護を実施する内容や、学びきれなかった技術を学修するなど、複数の内容で組み立てました。この授業では、学生が主体的に行動することを求めていることもあり、授業時間中の様子から4年間の成長が感じられました。看護学コースのディプロマ・ポリシー (DP) をもとに、4年間の自分自身の学びを振り返る時間では、理想の将来像や目標を考える機会となったようです。理想とする看護師を目指して、成長してほしいと願っています。

(山中道代)

学籍番号 氏名	感想	日付
理想とする将来像	目標	
	今不足していること	将来に向けてのプラン(宣言)
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・協働性 </div>		
講義・演習・実習を通して身に付いたこと		意識して行ってきたこと(学修、態度)
エピソード		学生の記載例

4年間の学びを振り返った看護DPチャート



実施した看護内容を振り返っている様子



多重課題状況下で看護を実践している場面を他の学生が観察している様子

第29回 浮城祭

第29回浮城祭が10月19日、20日の2日間にわたって開催されました。

今年のテーマには「浮城 伸びしろ 昇華しろ!!!」を掲げ、浮城祭実行委員会として学生自治会が春から計画、準備を行ってきました。

体育館イベントやスタンプラリー企画の開催、各コースやサークルからの学生模擬店の出店、ステージでの演奏やダンスなど、学生をはじめ、教職員の皆さま、地域の皆さまにも楽しんでいただける浮城祭をお届けできたのではないかと感じています。当日は多くの皆さまにご来場いただき、うれしく思っています。第29回浮城祭の開催に際してご協力くださいました皆さま、大変ありがとうございました。

来年度、浮城祭は30回目の開催を迎えます。今後もさらにパワーアップし、地域の皆さまにももっと楽しんでいただける浮城祭にしていきます！

(2年 立河華鈴)



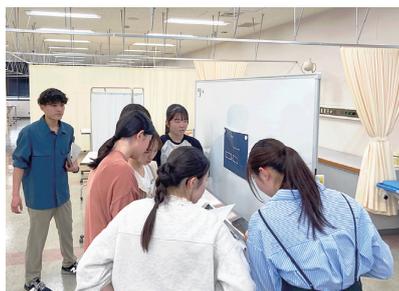
新入生オリエンテーションセミナー 看護学コース主催交流会

4月20日(土)に、午前には三原警察署による薬物防犯講習会と、学生自治会主催の交流会が行われたのちに、午後はコース主催の交流会を実施しました。看護学コース主催交流会は、学修支援アドバイザーの2~4年生の先輩たちが昨年に引き続き、三原キャンパス建物内のオリエンテーリングと座談会を企画し準備・運営をしてくれました。1年生は看護学コースの先輩や教員とともに、学内を走り回りオリエンテーリングしていました。その後、体育館で座談会を行いました。座談会では、2~4年生の先輩の進行のもと、入学して間もない時期の1年生たちは自己紹介や近況を話したり、教員や先輩にテスト対策やアルバイトなど学生生活に関する質問をしたり等話は尽きずあっという間に終了時間になっていました。最後に参加者全員で集合写真を撮りました。



看護学コース交流会の最後に参加者で記念撮影をしました

(土路生明美)



実習室をオリエンテーリングしている姿



オリエンテーリングをゴールした後にグループで写真撮影



体育館での座談会

1～4年生の授業紹介

1年生 日常生活援助方法論Ⅰ

この科目では、人間にとっての日常生活行動の意義を理解し、日常生活を支援する看護技術の基本的な方法を学びます。授業は演習を中心に進め、事例を用いて学生同士で看護師役と患者役を体験しながら、よりよい援助方法を探究していきます。看護技術に関する科学的知識や手順の根拠について学びを深めるだけでなく、援助を受ける患者の気持ちを理解するとともに、看護師として必要な基本的姿勢を身につけることを目標としています。また、バイタルサインの測定・観察の演習では、卒業3年目の現役看護師による学修支援を行っています。臨床での経験を踏まえた実践的なアドバイスを獲得の機会となり、卒業生アドバイザーは身近なロールモデルとなっています。自分の将来の目標にむけて、仲間と切磋琢磨しながら看護技術の習得に励んでいます。

(奥田玲子)



臥床患者のシーツ交換



バイタルサインの測定・観察
卒業生アドバイザーによる指導



ボディメカニクスを用いた体位変換

2年生 小児の健康と看護

小児の健康と看護（2年次・必修科目）は、乳児期から思春期に至る子どもと家族の特性を理解し、社会の動向をふまえながら1人ひとりの子どもが自分のもてる力を十分に発揮できる看護を実践するための小児看護学の基礎を学びます。子どもとふれあう機会が少なくなっている学生にとって、子どもと関わる基本的な姿勢や知識がわかりやすくイメージしやすいように、視聴覚教材やフィールドワーク、グループワークを取り入れて学修します。

子どもの成長発達の特徴や健康問題、各発達段階に応じた関わり方のポイントを学び、講義後には「観察の大切さがわかった」「実習が楽しみ」「子どもを意識して見るようになった」等の感想が聞かれました。

(松森直美)



3年生 急性期看護実習

3年次後半の授業は多くが臨地実習となり、臨床の場において既習の知識や技術を統合し看護を実践します。

急性期看護実習（3週間）では、健康状態の急激な変化のある患者・家族の看護を学修します。まず、クリティカルケア実習で、ICU、手術室、ハートセンターの看護師から看護の実際、環境の特徴、医療チームの連携や看護師の役割を学びます。

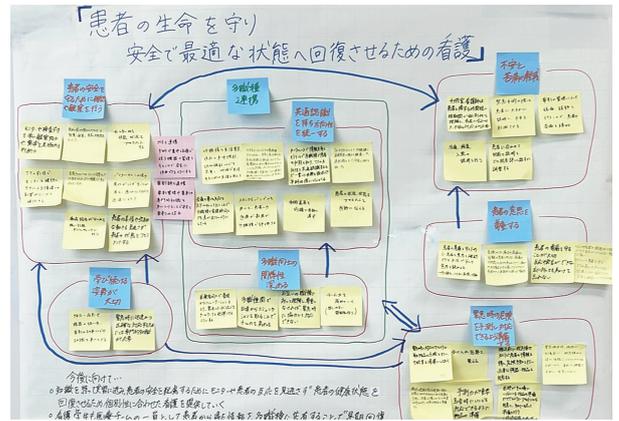


クリティカルケア実習：広島ハートセンター

その後、周術期看護実習では、手術を受ける患者を受持ち、退院後も患者が自分らしい生活を送ることができるように、手術侵襲からの回復を促すとともに手術により変化した身体への適応を促すための看護を実践します。定期的に、カンファレンスの場を設け、学生間での情報共有・意見交換とともに、教員・看護師からの指導・助言を通して、急性期にある患者・家族の看護について学びを深めます。

急性期病院での実習を通して、生命の危機的状態にある患者と向き合い、看護師の役割と責務を探究しています。

(中垣和子)



クリティカルケア実習カンファレンスで作成したラベルワーク

4年生 令和6年度 卒業研究報告会

11月29日に看護学コース「卒業研究報告会」を開催しました。報告会は、看護学や関連領域における研究テーマを自ら設定し、研究計画立案から論文作成、発表・報告等を行い一連の研究過程を学ぶことを目的としています。研究過程では科学的根拠や、新しい看護実践を修得しようとする意思と主体的に取り組む姿勢を持ち、自分なりのまとめをしました。この報告会は学生が主体的に運営します。そのため、学生は看護実習と



国家試験対策とを並行しながら論文執筆を行いながらも、皆で報告会の各係の役割を担いつつ協働して準備を進めてまいりました。当日は、研究成果をひとり一人が堂々と発表し、発表者の研究内容に対する質疑応答も活発に行えました。発表後の学生はひとまず安堵した表情を浮かべ、その中には充実感も漂っていました。これらの成果は、「卒業研究論文集」としてまとめ、例年4年生にも配信しています。

(上野陽子)

学生表彰

県立広島大学では、学術研究活動や課外活動に積極的に取り組み、特に優れた業績を挙げた学生を対象に、学生表彰を行っています。今年度、看護学コースでは学業成績優秀者として3年生6名が表彰を受けました。

学業成績優秀者 (敬称略)

藤井 友菜, 後藤 花菜
宮本 愛海, 中谷 愛美
山村 音羽, 中原 沙月



〒723-0053 広島県三原市学園町1-1

TEL 0848-60-1120 (代表) FAX 0848-60-1134 (代表)

✉ nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp

URL <https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/nursing/>



看護学科/看護学コース「学生生活通信」についてご意見、ご感想などお寄せ下さい。

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

発行：県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 広報係